

2018 年度 川下 登 教授 ドイツ歌曲 特別講義

1. 日 時 : 2018年 11 月 5 日(月) 15 時 15 分～16 時 45 分
2. 場 所 : F 号館 510 教室
3. 対象学生【必修】 : 「世界名曲講座」受講生(短大 声楽コース 2 年生、互換 : 大学 4 年生)
短大 声楽コース 1 年生 学内のみ他聴講可
4. 講 師 紹 介 : 川下 登 教授 (大阪音楽大学教授)

大阪音楽大学大学院を修了後、渡奥。20 代後半をウィーンにて過ごす。発声の師である W. シュタインブリック氏から他には存在し得ないであろう発声の奥深さと面白さを伝えられる一方で、ウィーン国立音楽大学にてリートとオペラを学ぶ。初めて出会う楽曲は多く、新鮮で刺激的であり、その頃よりドイツリートの世界にのめり込んでいった。在学中よりウィーン各地でのオペラやコンサートに出演し、好評を得る。そして幸いにも同大学を最優秀にて卒業する。30 歳で帰国。リートに傾倒する思いは続くが、実際には関西二期会を中心としたオペラ出演が先行し、華々しい活躍が注目される。帰国直後に催したリサイタルを皮切りに、「バラードの夕」では大阪文化祭賞奨励賞、大阪府民劇場奨励賞、「ドイツリートを讀んで」では大阪文化祭賞本賞を受賞。第 1 回 JSG 国際歌曲コンクール第 3 位受賞。等々著しい成果を上げた。また難解なドイツオペラ「若い恋人たちのエレジー」(ザ・カレッジオペラハウス公演)では主役の詩人ミッテンホーファー役のドイツ語での演唱を絶賛され、大阪府民劇場賞を受賞。その後も同様の活動が続くが、1993 年より始めた「クリスマスコンサート」、また 2003 年より始めた「MALE BOX コンサート」～バリトンはいかが～は聴衆の方々と共に楽しめる企画性と演奏内容が好評を博し、共に今もまだ続行中である。

更に 1980 年から奉職している大阪音楽大学では若き声楽家の感性を重んじる教育をモットーとし、個性豊かな人材を多数輩出している。現在大阪音楽大学教授、日本シューベルト協会副理事長、関西二期会会員。

5. 講 義 概 要 :

F.Schubert 作曲	「An die Musik」	歌唱: 受講生全員 ピアノ: 桑原 由布子 (学 4)
L.V.Beethoven 作曲	「Ich liebe dich」	歌唱: 川北 莉璃 (短 2) ピアノ: 高橋 夏海 (学 4)
J.Brahms 作曲	「Das Maedchen spricht」	歌唱: 吉川 奈那 (短 2)
J.Brahms 作曲	" Sechs Gesänge " より 「Liebestreu」	歌唱: 下曾山 陽香 (短 2)
F.Mendelssohn 作曲	「Auf Fluegeln des Gesanges」	歌唱: 宮地 ひなた (短 2)
R.Schumann 作曲	"Myrten"より 「Widmung」	歌唱: 斎藤 舞 (短 2) ピアノ: 桑原 由布子 (学 4)